

## 第10採択地区における保護者等の意見の聴取

### 意見

- 読みものを通して考えさせ、児童の道徳性をはぐくむ教材が多く見られました。
- 課題について児童に考えさせたり、友達と意見交換をしたりして考えを深めることができる教材も入っている教科書がよいのではないかと考えます。
- 授業で考えるポイントが細かく載っている教科書もあり、児童にとっては学習に取り組みやすいと思いますが、教科書で教えるのではなく、教科書を教えることになるのではないかと感じます。児童が自分のこととしてとらえ、道徳性をはぐくむことができる教科書がよいです。
- 道徳というのは、数学のように答えが1つに決まっているものでなく、40人いたら40人が違う考えを持っているとてもデリケートなものだと思います。だからこそある程度は方向性を定めて先生は教えていくのですが、子どもたちの感じる心を柔軟に幅広い視野を持って指導できる教科書が求められると思います。
- 私が注目しているのは、これからの子どもたち、ひいては社会が直面する「膨大な量の情報をどう捉えて、自らの考えで取捨選択をして、どう生かしていくか」という問題です。そのことに対して、今回の道徳の教科化によって、より「考え議論する」方向に向かうのは大変結構なことだと思っています。
- 今の時代の問題（いじめ、インターネットによるトラブルなど）に対応した教材が多く掲載されていました。「いじめ」が全国的に問題となっている中、道徳の時間で、「いじめ」について子どもたちがしっかりと考えてほしいと願っています。
- 2つの意味をもつ言葉の扱いについて、例えば1年の教材『かぼちゃのたね』では、「ぐんぐん」という言葉。別の教科書では「のびのび」という言葉も出てくる。言葉の意味やそこから受ける印象は、良い意味、その又逆の良くない意味がある。道徳に登場する両面の意味を持つ言葉は、子供の意味解釈において誤った認識をも与る可能性があり危惧される。実際の授業において先生方には、細心の注意を払って頂き教材準備や研究にご配慮を頂きたい。
- 採択作業は非常に難しいと感じますが、未来を創り自ら伸びゆく子供たちや未来を想像しながらの、深い考察と判断を頂きたい。
- 教科書は、校長と実際に授業を行う先生方の意見に鑑みて選ぶべきと思う。
- 現代社会を生きていく子どもたちの未来を常に考え、話し合いに全ての子どもたちが意見を出せるよう促し、成長させてほしい。
- 道徳教育を通じ、相手を思いやること、尊重すること、愛やいたわりの心を身につけていってほしい。先生方も教えることを通じ、子どもたちと同じように気づくことがたくさんあってほしい。
- デジタル教科書や2冊の教科書・ノートの使い方等、効果的に活用するよう期待している。
- 道徳は、家庭や地域の方々等、日々接する色々な場面や情報の中で、継続的に学んでいくものと認識していました。教科として教科書を使用することで、今まで以上に道徳というものをより早い段階から意識して学ぶ中で、保護者も再認識するよい機会になると思います。
- 教科となることで成績をつけることが、先生の負担になるのではとの不安もあります。

## 第10採択地区における保護者等の感想等の聴取

### 感想等

- 日本の四季や伝統文化、国際理解につながる内容が掲載されていたり、オリンピック・パラリンピックに関係のあるコラムや選手を題材にした読みもの、子どもたちになじみのあるアニメのキャラクターを使用し、子どもたちが意欲的に学習に取り組めるような工夫が見られました。
- いじめ問題や携帯電話などの情報モラルも扱われ、現代の子どもたちを取り巻く状況に合った内容になっていると感じました。
- 教科書とは別にノートが用意されている教科書もあり、考えたことを記録できるように工夫されていました。
- 様々な教科書を拝見し、それぞれの違い（文章、イラスト、紙質等）を感じることが出来ました。先生方はこの教科書を使い、指導するわけですが、道徳の場合は答えが1つではないので大きい、広い心を持って一人ひとりの考えを引き出してほしいと思います。
- 教科書によっては「ある行動、言動を模範解答のように扱っているもの」もありました。もちろん社会通念上、絶対に許されないことも存在するのですが、単純な善悪ではなく「そういう場面に第三者として出くわしたらどうしたらよいか」「許されないことをしてしまう人間が世の中には一定数いることを前提として社会システムを考える」など多様な切り口で授業展開が出来る教科書がいいのかなと思いました。
- 読むだけでも考えさせられたり、心が温かくなったりするようなる教材が多く、とてもおもしろかったです。
- 漫画が教材になっていたり、教材の中に描かれている絵や写真も豊富であったり子供は教科書を読むのが楽しいだろうと感じました。
- 現在、各方面で活躍している方を取り扱った教材もあり、子供たちはその人の生き方に触れることで、自分の将来に夢や希望を抱くことができるのではないかと思います。
- 子供に携わる大人とし、自分自身の道徳観が改めて問われ、自己と向き合う時間となっている。各社の様々な教材に、私も心が動かされ、自己を問い、認知し、思考し、伝達し、想像・創造していく体験があった。
- 先生には扱い易く子供たちにとっては身近な教材で、また地域や社会へと展開し易い教科書がなお良い。
- 重要なのは教科書採択に平行し大人の道徳への判断基準を向上させる事だと、自己への反省の意味を込めての感想とさせて頂きたい。個人的には、例えば“真善美、など幸せに生きていく上での道徳の自己判断基準が持て、生涯心の師となりうる多くの出会いがある教科書を選択していきたい。
- 従来のテーマに加え、福祉・防災・伝統文化・勤労・公共・国際等、新しいところでは情報モラル教育があり、これから社会の一員になり、常識として備わってほしい事柄を、多岐にわたるテーマで取り上げていると感じました。
- 感動させるだけに留まらず、話し合いを通じて実生活につながるよう導き、子どもたちに自らの成長を促している、と感じました。
- これからの子どもたちに必要な道徳とは何なのか、保護者の方々にも使用が決まった道徳の教科書を読んでいただくのもよいのではないかと思います。子どもの成長に置いて行かれないよう、親も常に学ぶべきだと思います。

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>●全体的にあまり大きな違いは感じませんでした。</li><li>●指導される先生の裁量によっては、自由度が少なく、画一的な方向性を示してしまい、同じような問題でありながら、状況や環境が違う場面の対処の多様性を阻害しかねないことには注意が必要ではないかとの感想を持ちました。</li></ul> |
|--|